

CASE 2 カフェハチャム 開店

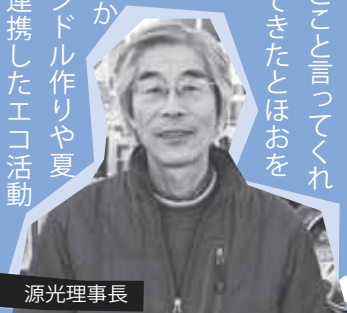
今から一年と少し前、平成21年1月29日にカフェハチャムは産声を上げた。ここは発寒商店街が「まちづくりの拠点」と期待するコミュニティカフェだ。カフェからまちの情報を発信し、さまざまな人を集めることで交流を演出。ここでの交流が新しい出会いを生み、まちに人を呼び戻す原動力になってほしいという地域住民の願いが込められている。



発寒3条4丁目。新琴似通に面した所にカフェハチャムはある。

開店から一年たった今、カフェハチャムは着実に地域に根付き始めている。「目玉の毎週土曜のイベントは好評で、時には立ち見も出るくらい」と源光氏は手応えを感じる。活動の成果が、自身が営む店でも「地元で買わない」とレジデビリティと言ってくれるお客さんが出てきたとほおを緩める。

商店街ではほかにアイスキャンドル作りや夏祭り、町内会と連携したエコ活動「エコタウンはつさむ」など多彩なイベントを行っている。今も夏祭りの準備中で、空き店舗のシャッターを開け、そこで展示や販売をするイベントを計画している。これらの準備には時間も経費もかかる。同組合の阿部一博理事は「イベントは多くが赤字。でも利益を追求してたら何も面白いことはできない」と話す。



源光理事長

「場所」を提案

まずは人集めから

発寒ではさらに一年前、商店街の中にあつたスーパーが撤退。基幹店を失った商店街の集客力は減退した。JRをまたぐ新琴似通の高架橋が開通していたこともあつて人の流れが変わつた。発寒商店街を素通りする人が増え、まちの活気がなくなつていくことを、発寒商店街振興組合の源光正晴理事長は肌で感じていた。

何かできることはないかと悩んでいた源光氏のもとに強力な助っ人が現れた。北海道大学のなかしまたけし中島岳志准教授だ。「一緒にまちを盛り上げませんか」。この一言がきっかけだった。

「うまくいくか不安はありましたよ。でも何かしないと、何も変わらない」。

噂を聞いて来たという恵庭市在住の大地真塩くん。「カフェでまちを盛り上げようという発想は面白い。コーヒーもおいしいです」。



阿部理事

CASE 3 あーとdeバザール 開催

ぎんなん通のごみ拾いや、スノーキャンドル作りに参加した

発寒東小学校3年1組 佐々木優菜さん



「ごみ拾いをしてアトム通貨をもらった時は、地域のためにいいことをしたんだということが実感できました。まちの人たちが優しいので、このまちが大好き。これからもぎんなん通のために続けるいきたいです」

恩返しすることが我々の社会的責任」と琴似商店街振興組合の玉田一至理事長は話す。

店舗が集積し、商店街が主体となつて行ったロードヒーティング化や電線の地下埋設も好評の琴似商店街はハード面では申し分ない。にぎわいもある。琴似商店街は今、これらの財産を活用して何を地域に還元できるのかを考えている。



玉田理事長



劇場運営などを手掛

ける西区のNPO法人コンカリーニョからの提案で始まったこのイベントは、商店街の祭りを盛り上げるだけでなく、芸や音楽を志す若い才能の発表の場にもなっている。

「琴似で商売をしている以上、琴似に

商店街。あなたの家の近くにもあるのではないのでしょうか。もし、あまり利用してないのなら、ぜひ利用してみてください。懐かしい雰囲気の中に温かさや、笑顔があります。そこに住んで商売する人の責任が感じられます。自分が住むまちはずっと魅力的であつてほしいですよ。私たち一人一人が地元を向けることで、それは可能になるのです。